

社団法人 日本循環器学会
2009年度第1回理事会議事録

日 時 2009年(平成21年)6月19日(金) 14時40分～17時35分

場 所 東京国際フォーラム ガラ棟 5F(502)

〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-5-1

理事現在数：20名

出席：和泉 徹、小川 聡、小川久雄、児玉逸雄、坂田隆造、下川宏明、高本眞一、鄭 忠和、
友池仁暢、堀 正二、堀江 稔、松崎益徳、水野杏一、室原豊明、山岸正和

欠席：北 徹、島田和幸、島本和明、土居義典、永井良三

その他出席者

監事：青沼和隆、今泉 勉

幹事：池田 義、白山武司、近森大志郎、寺崎文生、西垣和彦、野原隆司、藤田正俊、堀内久徳、
松森 昭、南野哲男、吉川 勉

打合せ：村松孝夫(財団法人日本心臓財団)

事務局：加藤安雄(事務局長)、清水光則(事務局長代理)

・議事

第1号議案 2008年度事業報告

第2号議案 2008年度決算報告

1) 2008年度決算報告

2) 監査報告

第3号議案 新入及び退会会員の承認

1) 新入会員承認

2) 会費未納による退会会員の承認

第4号議案 委員会報告

1) 財務委員会

2) 総務委員会

3) 国内交流委員会

4) コメディカル委員会

5) 健保対策委員会

6) 編集委員会

7) 国際交流委員会

8) 情報広報委員会

9) 教育研修委員会

10) 禁煙推進委員会

11) 循環器救急医療委員会

12) 心臓移植委員会

13) 専門医制度委員会

- 14) 専門医編集委員会
- 15) 学術委員会
- 16) 学術集会運営委員会
- 17) 学術集会プログラム委員会
- 18) 用語委員会
- 19) 医療安全・医療倫理委員会
- 20) WCC 招致委員会

第5号議案 年次学術集会に関する件

- 1) 第73回年次学術集会報告
- 2) 第74回年次学術集会報告
- 3) 第75回年次学術集会報告

第6号議案 委員会委員の承認

・議事の経過及び結果

- 1) 定刻に、小川理事長が議長となり開会した。
- 2) 藤田総務幹事から、出席者数は定款第25条の定数を満たし、理事会が成立していると報告があった。
- 3) 議長が、議事録署名人として第73回堀会長と第76回鄭会長を指名し、了承された。
- 4) 藤田総務幹事から、配布資料および回覧資料の確認があった。
- 5) 資料に記載の7名の物故会員に対して黙祷が捧げられた。
- 6) 前回理事会議事録の確認がなされた。

第1号議案 2008年度事業報告

藤田総務幹事から2008年度事業について資料に沿って説明があり、承認された。

第2号議案 2008年度決算報告

1) 2008年度決算報告

野原幹事より、5会計の決算案について、配付の「決算報告書」及び「収支決算説明書」を用い、要点について説明があった。

特に、一般会計では、予算対比では改善がみられたものの、委員会活動による基金の使用や資産価値の目減りにより正味財産が減少したこと。

支部特別会計では、JCS-ITCコースが大幅に増加、マイナスの要因であるとともに、予算管理が充分でないことや、地方学術集会への補助が支部の会計を圧迫しているとの見方が出来ること。

地方会特別会計では、収支均衡が図られておらず、本部や支部からの補助をもってもマイナスになっていること。

等々により、5会計の合計は、当期収支差額がマイナス36,421千円、正味財産期末残高は1,654百万円で、学術集会特別会計を除く4会計で正味財産が減少した。

また、年次学術集会に関し、会長事務局で必要となった資料にある什器備品(資産物件)を第73回会長へ寄付することについて、了解され、決算案と合わせて承認された。

なお、今後の学術集会開催に際しては、昨今の不景気や利益相反の問題もあり、寄付に頼るのではなく、参加者にも負担(参加費値上げ)を求めざるを得ないのではないかと。

会場によっては規模に限界があり、開催会場を固定化する必要があるのではないかと財務委員会での意見が報告され、学術集会運営委員会での検討を依頼、又、JCS-ITCコース開催による費用超過については、社会への貢献が本学会の責務として、当面は実施、費用負担していくことが確認されるとともに、その収支改善、一元化などの検討を引き続き進めてもらうことになった。

また、外部から受け入れた寄付内容について、寄付金取扱規程に則り、資料に示され、報告された。

2) 監査報告

今泉監事より、2008年度の財務諸表及び収支状況について、正しく示していること、また、事業及び理事の職務執行について、真実であり、不正の行為等はない旨報告があった。

第3号議案 新入及び退会会員の承認

1) 新入会員の承認

藤田総務幹事から、2009年2月1日から同年3月31日までの2008年度新入会員283名および同年4月1日から同年5月31日までの2009年度新入会員176名が資料に基づいて説明され、承認された。

また、2008年度の入会者は976名であり、2006、2007年度と比べてほぼ横ばいであることが報告された。

2) 会費未納による退会会員の承認

藤田総務幹事から、2007年度及び2008年度の二年間にわたって会費が未納である会員322名が資料に基づいて説明され、定款の定めに基づき、これらの会員の退会が承認された。

第4号議案 委員会報告及び検討事項

1) 財務委員会

北委員長が欠席のため、堀江委員より以下の通り報告があった。

基金管理細則に基づき、基金設定されている各賞金の2008年度末残高が資料の通り提示された。

ラジオメーター及びJTB西日本の賛助会員新規入会が認められた。

機関誌CJ.Vol.74及び『循環器専門医』Vol.18の販売価格について、資料にある現行通りの価格を提案された。

以上について承認された。

2) 総務委員会

議長から以下の通り報告があった。

次回の理事選挙に伴う会長との交代について確認した。1)会長と交代する理事は、当該会長の任期期間中は理事待遇でオブザーバーとして理事会へ参加する。2)交代した理事は委員長にも就任していただく。3)「最下位理事」ではなく、「その支部選出の当選理事と交代する」とし、誰と交代するかはその支部にお任せする。4)交代した理事は、他の理事と同じく会長に選ばれる権利を有する。

なお、これは新しい公益法人制度に移行した後は起こらない問題である。

事務局で使用している専用コンピュータプログラムについて、現在更新システムを作成している。開発期間が長いので、中間(2009年12月予定)で全費用8,900万円の半額を開発会社に支払う必要があり、「CPUプログラム作成基金」を一部取り崩して一時的な支払に充てる。なおこれは2010年6月予定のリース取組時に基金に戻すこととする。

CJ 編集室について、編集委員長の仕事の補助のために、編集委員長のところに現地採用で非常勤職員を一名採用する。雇用人件費は本部で負担する。

CJ 論文が、発刊前に別の商業誌に掲載されていたことが判明し、編集委員会で対応をいただいた。総務委員会としては、学会として関係者に厳重注意を行うこと、また再発防止のために本会ホームページに今回の事例を掲載することとした。

会員の処分規程について、規約審議部会で検討いただいている。次回理事会で委員会の設置も含めてご承認いただく予定である。

新公益法人への移行について、会員に対しパブリックコメントを求める。今年後半に変更の概要を公開し、来年春から夏にかけて全文を公開する予定である。

日本専門医制評価認定機構から専門医制度推進支援事業について委員推薦依頼があり、吉川勉先生(慶應義塾大学)を推薦する。

なお について、費用見積額について質問があり、これまでの理事会での経緯について後日理事に連絡することとした。

以上について、承認された。

3) 国内交流委員会

議長から以下の通り報告があった。

ICD-CRT 研修制度協議会が、日本循環器学会・日本心不全学会・日本不整脈学会・日本胸部外科学会・日本心臓血管外科学会の5学会により発足し、規約を定めた。

上記協議会について、事務局を日循とすること、同協議会の会長および委員は国内交流委員となっただけで、各学会からの委員の旅費は各学会負担であること、会議開催費用は事務局負担とすることの依頼があった。

について、協議会会長の相澤義房先生に国内交流委員になっていただく。

以上について、承認された。

4) コメディカル委員会

水野委員長から以下の通り報告があった。

年次学術集会のコメディカルセッションは、第75回総会からコメディカル委員会が企画等を担当する。

コメディカル対象の学会賞については、75回総会からコメディカル委員会が主催する方向で検討を進めている。

コメディカル委員として、技士関係についても関係学会等から推薦を頂く予定である。コメディカル関係の事業として、認定制度を持っている学会等と、学会参加の認定などを行うことを検討している。

以上について、承認された。

5) 健保対策委員会

和泉委員長から以下の通り報告があった。

平成 22 年度診療報酬改定に向けて、平成 20 年度改定に関する影響も踏まえて要望を出している。ガイドラインと保険診療との齟齬については、今後調査を行って厚労省に提言し、解決を図る予定である。

厚労省が集積している DPC データについて、今後開示が予定されているとのことで、今後働きかけを強めていきたい。

ベータブロッカー、ボセンタンについて要望書を提出した。

以上について、承認された。

6) 編集委員会

下川委員長より以下の通り報告があった。

2009 年の投稿論文数は、昨年 10 月末で Case Report の受付を終了したことで、月約 80 編となり、昨年より、20 編程度減少している。内訳として、Clinical Investigation が約 70%、Experimental Investigation が約 13% であり、国別では、国内と海外が約半分である。

また、採用から発刊までの日数は、徐々に改善される傾向にある。

現在まで、約 4800 名の CJ 送本不要申告があり、CJ 冊子製作費及び送料を試算した結果、年間約 2000 万円程度の経費が節約出来る見込みである。

また、この秋より、地方会抄録掲載 Supplement をオンライン化することで、年間（2 冊分）約 800 万円の経費が節約可能である。

心臓外科を対象とした Supplement が、6 月 25 日に発刊される。

CJ の送本を停止した会員へのサービスも含め、毎月 1 回、発刊の 25 日頃に、CJ の目次を JCS ニュースレターで配信することになった。

CJ の国際化を図る意味で、新たに 11 名の International Associate Editor に就任を要請し、冠動脈インターベンション・心不全・不整脈・血管生物学・分子心臓病学・肺高血圧等の分野をカバーいただくこととなった。

今までの Associate Editor 29 名と合わせて、合計 40 名の組織となる。

CJ の flexibility、あるいは科学的学術レベルを高める意味で、2010 年から、1 論文につき 3 個までの動画を含む Supplementary files の受付を開始する。費用は年間約 400 万円かかる見込みである。

業務量の増えた編集委員長の仕事を補助するため、東北大学の医局に、日本循環器学会の正職員ではなく、現地採用の臨時雇用として、時限付の非常勤を 1 名雇用することとなった。経費はその全部ないしは一部を日本循環器学会が補助する。

以上について、承認された。

7) 国際交流委員会

鄭委員長から以下の通り報告があった。

第 17 回アジア太平洋心臓病学会(北畠顕会長)が合計 3,091 名の参加を得て、盛会裏に無事終了となった。

APSC 加盟学会でのジョイントシンポジウムに演者を派遣しており、6 月に厚生労働省の平岡昌和先生をインドネシア心臓病学会に委員として派遣した。また、5 月に日本医科大学の佐藤直樹先生を台湾心臓病学会に派遣予定であったが、豚インフルエンザの影響で派遣中止となったため、講演収録 DVD の送付を行った。

ESC にジョイントシンポジウムの開催依頼をすることが決定しており、依頼状の作成を進めている。2010 年にパリで開催される ESC からの開催申し入れを行う。

2009 年 3 月に、初めて ACC で ACC-JCS ジョイントシンポジウムが開催され、非常に盛会であった。以上について承認された。

8) 情報広報委員会

坂田委員長から以下の通り報告があった。

JCS News Letter の配信状況は、有効配信件数が 1 万 5,000 件超、開封率は 60%前後を推移しており依然微増傾向にある。また『Circulation Journal』の希望者のみ送付に伴う機関誌広告主離れを防ぐため通常号に加え月一度『Circulation Journal』の目次と協賛企業一覧を掲載したニュースレターを配信することとなった。

第 3 回プレスセミナーの準備状況について、日時会場および予定演者が決定したことが報告された。今後のプレスセミナーのあり方については、開催目的はプレスに対する教育と社会への貢献にあるので、セミナー開催の効果の評価は単純に下せるものではなく、当面は従来どおりの形態でテーマなどを工夫して様子を見ることとする。

以上について、承認された。

9) 教育研修委員会

堀江委員長より以下の通り報告があった。

「第 5 回循環器専門医を志す研修医のための卒後セミナー」を 7 月 12 日(日)に大手町サンケイプラザで開催する。中川義久先生を中心とした企画ワーキンググループが魅力あるプログラムを作成し、既に定員を超える応募がある。

第 73 回学術集会教育セッションのビデオライブが「ライブデモンストレーション実施要項」に沿ったものであったか検証を行った。ライブ中継よりビデオ収録の方が準備に時間がかかった以外は大きな問題はなかった。第 74 回でも今回を踏襲してビデオライブが行われる予定。

以上について、承認された。

10) 禁煙推進委員会

室原委員長から以下の通り報告があった。

日本循環器学会を含めた 11 学会で構成される「禁煙推進学術ネットワーク」からの要望に応じて、同ネットワークのホームページ上に、循環器学会の禁煙推進のホームページコンテンツの掲載およびリンクを設定した。

循環器専門医はやはり非喫煙者であるべきではないかという議論が委員会内であり、会員向け禁煙

アンケートの中で会員の意見を現在確認している。アンケート結果で会員の大多数の賛同があれば、理事会あるいは専門医制度委員会に検討をお願いしていきたい。

委員会としては、JT の完全子会社の鳥居薬品からの寄付金については、やはり受けるべきではないという意見である。鳥居薬品の会社ロゴも、よく見ると JT という文字がモチーフになっているので、同社が賛助会員でもあることも併せて、将来的に何らかの検討が必要ではないかと考えている。

施設に対する禁煙化状況アンケートを実施した。前回の 2005 年アンケートと比べて敷地内全面禁煙施設が 30% から 60% に増えており、全館禁煙の 30% を合わせて現在 90% の施設が敷地内もしくは全館禁煙となっている。また回答施設の約半数で禁煙外来が開設されており、保険適用による禁煙治療は、回答施設の約 50% が実施または実施予定である反面、残り 50% は施設基準が満たされないために対応できていない。また会員個人への禁煙状況アンケートも、無作為で 1,000 名に実施しているが、さらに 1,000 名に追加アンケートを行なう予定である。

以上について、承認された。

1 1) 循環器救急医療委員会

小川久雄委員長より以下の通り報告があった。

JCS-ITC 運営小委員会に、日本救急医学会から坂本哲也先生（帝京大学）と真弓俊彦先生（名古屋大学）が、日本麻酔科学会から漢那朝雄先生（九州大学）と田勢長一郎先生にオブザーバとしてご参加いただけるよう依頼状を送付し承認を得た。

JCS-ITC 事業の会計について、2008 年度は 9 支部のうち 2 支部だけが黒字で 7 支部が赤字であった。今後は一層の受講者の増加を図るとともに、全国の事務の一元化についても本部事務局で行うのか、アウトソーシングするのもも含めて検討を行いたい。

新型インフルエンザ対策として、濃厚感染地域に指定された地域の BLS/ACLS コースを中止する旨、各支部に通達した。

AED 検討委員会で、一般市民に対してマウス・トゥ・マウスを省略した、胸骨圧迫と AED による心肺蘇生法を推奨したいとの提案があり、親委員会としても承認した。

AHA が市民啓発用として作成している心臓発作、心停止、脳卒中の警告症状についての小冊子の日本語版を作成するにあたり、AHA から日本循環器学会とのコラボレートしたいとの提案書が届いたので、理事会の承認を得たい。具体的には循環器救急医療委員会と厚生労働科研究班 J-PULSE が共同で日本語版の監修を行い、冊子表紙には AHA と JCS のロゴマークを併記して掲載する。製作費用 150 万円は J-PULSE の研修費によって賄われる。

以上について承認された。

1 2) 心臓移植委員会

島田委員長欠席のため和泉理事から以下の通り報告があった。

第 73 回学術集会会期中に移植実施施設と本学会委員が集まり意見交換会を開催した。これまで申請側はレシピエントを、委員会側はドナーの付託ということを強く意識しており観念の違いが見られたが、意見交換により互いが納得し、現在はスムーズに適応検討審査が行われている。

2009 年 5 月 29 日現在の心臓移植および心肺同時移植適応検討の状況については資料のとおりである。心臓移植について昨年は過去最多 70 例の適応検討申請があり、今年も 5 月末時点で 31 例の適

応検討を行っている。

5月18日に臓器移植法改正のA案が衆議院で採択された。参議院でも採択されるよう、先生方には参議院議員に働きかけを行うよう協力をお願いしたい。なお、資料の通り日本医学会から各分科会に臓器移植法改正についての緊急アンケートがあり、本学会は理事全員の同意のもと改正A案に賛同する旨回答をした。

以上について、承認された。

13) 専門医制度委員会

土居委員長欠席のため議長から以下の通り報告があった。

資料のとおり、2009年4月1日専門医認定更新対象者1,678名のうち、1,650名の更新が認められた。

「医療安全・医療倫理に関する講演会」についてホームページ上での視聴研修システムの作成および地方会でのビデオセッションによる研修のための講演内容の録画を行うため、要望書を資料のとおり医療安全・医療倫理委員会へ提出した。

以上について、承認された。

14) 専門医編集委員会

友池委員長から以下の通り報告があった。

「循環器専門医」誌の紙質変更について、Circulation Journalで現在使用している紙質をもとに検討した。紙が薄くなると裏写りがしやすくなることが懸念されたが、1号につき24万円程度の紙代が安くなることと重さも80g程度軽くなることからCirculation Journalと同様の紙の薄さであれば裏写りも許容範囲内であると判断され変更することとなった。2009年9月発刊の『循環器専門医』誌17巻2号から変更する。

「循環器専門医」誌第17巻2号の目次確認および18巻1号の目次検討・決定を行った。

以上について承認された。

15) 学術委員会

堀委員長から以下の通り報告があった。

2009年度Translational Research振興事業は、「ヒトiPS細胞由来心筋樹立による家族性突然死症候群の病態解明と治療法の確立」(研究代表者:福田恵一先生)の1件(2009年度2,000万円、2010年度1,000万円、2011年度1,000万円 計4,000万円)に決定する。

2009年度循環器疾患診療実態調査に関する臨床研究データマネージメント業務は、昨年同様に財団法人国際協力医学研究振興財団(業務委託料260万円)、実態調査事務局業務については、昨年同様に株式会社コングレ(業務委託料105万円)に業務委託する。

2008年循環器疾患診療実態調査は、昨年よりも6月18日時点の回答率が20%マイナスであった。8月末頃まで研修/研修関連施設を中心に督促を行い、前年同様90%程度の回収率を目指す。Circulation Journalに掲載予定の「過去3年分の実態調査結果」「海外学会の実態調査結果との比較」については、詳細を検討する。

2010年度新規発足ガイドライン作成班は、次の2班とする。

「カテーテルアブレーションに関するガイドライン」(仮題)(班長：奥村 謙先生、助成金 200 万円/2 年間)

「小児期心疾患における薬物療法ガイドライン」(仮題)(班長：佐地 勉先生、助成金 200 万円/2 万円) 2004-2005 年度活動(全面改訂、部分改訂を含む)、ガイドラインが 5 年目改訂に該当するため、次のとおり改訂を行うこととなった。なお、班長については次回委員会で検討する。

2010 年度活動

- ・「虚血性心疾患に対するバイパスグラフトと手術術式の選択ガイドライン」(部分改訂、助成金 50 万円)
- ・「心臓血管疾患における遺伝学的検査と遺伝カウンセリングに関する」(部分改訂、助成金 50 万円)
- ・「臨床心臓電気生理検査に関するガイドライン」(部分改訂、助成金 50 万円)
- ・「循環器診療における放射線被ばくに関するガイドライン」(部分改訂、助成金 50 万円)
- ・「心筋梗塞二次予防ガイドライン」(部分改訂、助成金 100 万円)
- ・「急性心不全治療ガイドライン」(部分改訂、助成金 50 万円)
- ・「成人先天性心疾患診療ガイドライン」(部分改訂、助成金 100 万円)
- ・「大動脈瘤・大動脈解離診療ガイドライン」(部分改訂、助成金 50 万円)
- ・「不整脈の非薬物治療ガイドライン」(部分改訂、助成金 100 万円)
- ・「肺高血圧症治療ガイドライン」(部分改訂、助成金 50 万円)

2010～2011 年度活動

- ・「虚血性心疾患の一次予防ガイドライン」(全面改訂、助成金 200 万円/2 年間)

社団法人日本循環器管理研究協議会から「日本循環器病予防セミナー」共催の依頼があったが、これまで共催による浄財支援を行っていないため非承認とする。共催であれば、一度国内交流委員会の検討の上、再度学術委員会にて検討を行う。

当初はスポンサー付での英訳作成することとしていたが利益相反との問題が懸念されること、また、ガイドラインの学術性・中立性を保つため、作成費用は学会負担で、希望の 18 班全てをダイジェスト版で作成することとする。ついては、スポンサーには、二次利用(別刷作成)5000 部程度支援についてアンケートを行う。

以上について、承認された。

16) 学術集会運営委員会

児玉委員長から以下の通り報告があった。

73 回年次学術集会の成果について、2,000 名を抽出して、回答者 363 名、My Abstract、電子ポスターなどの新しい企画についてのアンケート結果をまとめた。

トラベルグラントの申請について、今後は国別を設けることはなく、トラベルグラントを希望する演題採択者にはすべて、申請書の提出を求める。

Late Breaking Clinical Trials 募集要項について、第 73 回学術集会の募集要項を踏襲する。

学術集会プログラムの WEB 検索について、過去 5 年間さかのぼって著者名やキーワードで抄録検索可能なシステムを構築する。第 74 回学術集会特別会計で補正予算を組む。初年度 210 万、データベース料 25 万となる。

『内田賞』辞退について、循環器学研究振興財団理事長であった内田先生からのご提案で、あらた

な賞を設定するというところで1年以上にわたって学術集会運営委員会で議論を続けてきた。公益信託に確認したところ、内田賞基金を原資とする賞は1つしかないということが明白になった。同じ賞を、公益信託が「内田賞」、日循が「高度先進医学日本循環器学会賞」として募集することになりかねないため、最終的に辞退することにした。なお、日本心臓財団の佐藤賞副賞については小川理事長から経緯説明とお詫びを記載いただき、日本心臓財団理事会で審議の結果、250万円のまま据え置くということになった。

第74回学術集会プレセッションについて、2010年3月4日(第74回学術集会前日)夕刻にスポンサーとの共催で開催することが了解された。

学術集会発表におけるCOI開示について、第74回学術集会から導入する予定であったが、内科系14学会の指針案は策定されたが、細則については各学会で検討することになっている。医療安全・医療倫理委員会(永井良三委員長)で審議すべきものであり、慎重に取り扱う必要がある(6月は未開催)。第74回学術集会には間に合わない可能性があるが、医療安全・医療倫理委員会に審議委譲する。

WCC2012年招致について、2012年日本招致(京都)が未決定につき、第76回学術集会会長鄭忠和先生からこのままでは学術集会準備に支障をきたすため、WCCの招致年度および会場も含めて再検討の発言があった。この件については、今後WCC招致委員会で審議することになった。

以上について承認された。

17) 学術集会プログラム委員会

松崎委員長から以下の通り報告があった。

第74回学術集会では、プレナリーセッション5題、シンポジウム24題、ジョイントシンポジウム4題である。特別講演を予定していたDr. Patrick Serruysがキャンセルとなった。

ACC-JCSジョイントシンポジウムについて、今年3月のACCのときに行われたジョイントセッションと同じタイトルで開催する。国内演者は松森昭先生と筒井裕之先生にお願いする。

以上について承認された。

18) 用語委員会

山岸委員長から以下の点について報告があった。

用語の修正については、オンラインで訂正作業を行っている。今のところ目だった案件はない。

以上について、承認された。

19) 医療安全・医療倫理委員会

永井委員長欠席のため坂田委員から以下の点について報告があった

第74回学術集会時 医療安全・医療倫理に関する講演会について。例年開催している本委員会主催講演会について、2009年3月評議員会において「専門医認定更新のための必修研修」に決定された。同要請により、講演会内容の録画および専門医限定視聴ホームページへの掲載・地方会での上映を条件に二人の講師に依頼し承諾を得た。井口博氏(弁護士・ゆまにて法律事務所)、河野龍太郎氏(自治医科大学医学部医療安全学)。担当は昨年に引き続き坂田委員・代田委員。

臨床研究の利益相反について。2009年3月「臨床研究の利益相反指針」に係る内科系関連14学会

協議会に本委員会 水野委員が出席。日本内科学会の COI 指針・細則の制定を受け、各学会は利益相反委員会の設置を早々に実施し、その後の運用、及び細則の制定を検討していくことが求められているとの報告があった。今後は、小川聡理事長指示により本委員会で利益相反委員会を兼ねることとなった。

以上について、承認された。

20) WCC 招致委員会

松森委員長から以下の通り報告があった。

4月25日にフィンランドで開催された WHF 理事会では、CEO の Ms. Jeya Wilson が退任となり、Ms.Helen Alderson が新任となった。

5月21日開催の第1回 WCC 招致委員会では、World Heart Day 活動、各国の財団と学会が共同活動の有効性、今後の WHF 活動とのコラボレーションについて検討された。

WCC2012年の開催場所は、遅くとも2009年12月までに決定する予定である。決定しなかった場合は、2012年を辞退し、2014年に切り替えることを検討する。仮に京都に決定した場合は、日本循環器学会学術集会の質を落とさないよう会場スペースについて検討を行う。

以上について、承認された。

第5号議案 年次学術集会に関する件

1) 第73回年次学術集会報告

第73回学術集会堀正二会長から以下のとおり最終報告があった。

一般演題応募が3,905題で、過去最高応募であった。参加者も、関係者を含めて1万7,500を超える参加者となった。海外からは67名を招聘した。

教育セッションの一環としてビデオデモンストレーションを行った。

一部デジタルポスターも開催するなど、幾つか新しい試みをした。

その後、小川理事長から学術集会を盛会裏に導き本学会の発展に大きく寄与した功労に深く感謝の意が表示され第73回学術集會会長堀正二先生に盾が贈呈された。

2) 第74回年次学術集会報告

第74回学術集会北徹会長が海外出張中につき、事務局長の堀内久徳先生から以下のとおり報告があった。

会長校セッションであるラウンドテーブルディスカッション5題、トピック14題、コントロールシーター2題、ミートザエキスパート7題、会長特別企画等のタイトルが決定した。

特別講演予定の Dr. Patrick Serruys がキャンセルとなった。

プレセッションについて、3月4日(木)京都駅前ホテルグランヴィア京都において学術集会前日の夜7時から9時ごろにかけて、ファイアサイドセミナーの形態で3セッションを企画している。理由として、前日登録を行い初日の混雑を緩和すること、不況による展示収入の減少を補うなどの目的がある。

参加費(現状15,000円)の値上げについては、予算を組み直した上で検討する。

3) 第 75 回年次学術集会報告

第 75 回学術集会小川聡会長から以下のとおり報告があった。

2011 年 3 月 18 日(金)～20 日(日)、パシフィコ横浜で開催する。

準備委員会がスタートし、各先生方の協力を得る。

第 6 号議案 委員会委員の承認

議長から委員会および委員の追加について資料の通り報告があり、承認された。

以上をもって本日の議事を終了し、議長から長時間の議事についての謝辞があり、閉会した。

上記の議事の経過及び結果を明らかにするため、この議事録を作成し議長並びに議事録署名人、これに署名押印する。

2009 年 6 月 19 日

社団法人 日本循環器学会 2009 年度第 1 回理事会

(署名)

(捺印)

議 長 小 川 聡

議事録署名人 堀 正 二

同 鄭 忠 和

(以下余白)